

環境コミュニケーション大賞（環境報告書部門） 環境配慮促進法特定事業者 採点表（平成30年版）

基本的に採点を考え、3. 2. 1. 0を付すこととする。ただし、小数点以下、一桁も可とする。
レベル判定については下記の例示的レベルだけでなく、環境省作成環境報告書ガイドラインの記載項目をベースにし、環境パフォーマンス指標も参考にして判定する。

1) 基礎的項目 MAX : 15 点

① 代表者の緒言およびコミットメント (5点)

「3」	持続可能な社会形成と環境保全および SDGs についての確実なコミットメントと、経営資源配分等の約束が入っている、特に GHGs について超長期のビジョンや 2020 年代の目標等のコミットメント、等
「2」	地球環境問題等一般論を述べておりコミットメントが明確でない、等
「1」	緒言のみでコミットメントなし、等
「0」	緒言なし。

② 基本理念 (4点)

「3」	サステナビリティについて深い認識が表明されている、等
「2」	事業者の持続可能性の認識にとどまり、社会の持続可能性認識にまでは広がっていない、等
「1」	環境を狭く解し、公害防止的発想にとどまっている、等
「0」	記載なし

③ 報告対象組織バウンダリー (2点)

「3」	報告対象範囲は支配権の及ぶ範囲を網羅している、等
「2」	事業者を中心に部分的に影響力の及ぶ対象にも及んでいる、等
「1」	事業者単体に限定されている、等
「0」	事業者単体の部分的範囲にとどまっている

④ 事業概要 (2点)

「3」	その事業者を知らない人が見て、事業概要が明確にわかる詳しい内容となっている、等
「2」	事業概要のほか、主要財務データ等もある程度記載されている、等
「1」	設立の趣旨と簡単な事業内容のみの記載、等
「0」	記載なし

⑤ 報告対象期間・発行年月 (2点)

「3」	明確に記述され、はみ出る部分などについての説明もある、等
「2」	一応の記載、平均的な記載、等
「1」	記載あるも欠落あり、等
「0」	記載なし

2) 環境マネジメントシステムに関わる内容

MAX : 15 点

① 方針・目的 (4 点)

「3」	事業者の特性を反映、コミットメントとの整合性、等
「2」	網羅的な記載、平均的な記載、等
「1」	部分的に記載、記載あるも欠落あり、等
「0」	記載なし

② 組織・体制 (3 点)

「3」	EMSの状況、意思決定プロセスが理解できる、事業者の特性を反映、等
「2」	一応の記載、平均的な記載、等
「1」	部分的に記載、記載あるも欠落あり、等
「0」	記載なし

③ 監査 (2 点)

「3」	内部監査・外部監査の基準・内容・結果の記載が豊富、等
「2」	一応の監査体制・手順等記載、等
「1」	記載あるも欠落あり、等
「0」	記載なし

④ 継続的改善 (2 点)

「3」	継続的改善の仕組がわかる及び具体的措置および改善方針等の記載、等
「2」	結果の報告はあるが、仕組等は必ずしも明確ではない、等
「1」	考え方のみを述べている、等
「0」	記載なし

⑤ 緊急時対応 (2 点)

「3」	事業者特性を表した対応策、訓練実績等の併記、等
「2」	一応の記載、平均的な記載、等々
「1」	部分的に記載、等
「0」	記載なし

⑥ 教育 (2 点)

「3」	中長期的な戦略としての教育方針・体制・実績等について記述、等
「2」	一応の記載、平均的な記載、等々
「1」	教育方針・体制・実績等について欠落が多い、等
「0」	記載なし

3) 環境パフォーマンスに関わる内容

MAX : 35 点

3-1. 持続可能な発展についての取組

MAX 5 点

「3」	貧困削減、生産・消費形態の変更、天然資源の基盤の保護・管理(生物多様性・生態系の保全など)、SDGs の目的とリンクした方針、目的、目標、となっている。
「2」	地球温暖化だけでなく生物多様性についても多くの取組がある。
「1」	CO2 にのみ特化している、等
「0」	記載なし

3-2. 全般

MAX : 5 点

① 循環型社会形成への努力・全体像の把握 (ライフサイクル的把握) (2 点)

「3」	サステナビリティの認識のもと、川上、川下への配慮も含め、影響を与える環境負荷の全体像を示し、明確な方針と対応を示している、2050 低炭素社会を意識した、長期ビジョン、2020 年代目標がある。等
「2」	自らの活動についてのみ対応している(川上・川下への配慮にまでは及んでいない)、等
「1」	自らの活動の1部分についてのみ記載、等
「0」	記載なし

② 方針・目標・計画等の総括、整合性 (2 点)

「3」	全体としてコミットメント、方針・目的を総括し整合性をとっている。
「2」	良く読めば全体的な整合性はあるが、わかりづらい、等
「1」	部分的な整合性、等
「0」	整合性なし

③ 環境に配慮した投融資の状況 (1 点)

「3」	他者への投融資にあたっての環境配慮の方針が明確に示され、実績等も記載されている、等。
「2」	方針はうかがい知れるが、実績等全体像までは明確ではない、等
「1」	散発的な例の記載、等
「0」	記載なし

3-3. 個別指標 1 Operation (操業)

3-3-1 独立行政法人

MAX : 14 点

① 総エネルギー投入量及びその低減対策 (4 点)

「3」	目標・実績・計画とも指数だけでなく絶対値も示し、目標を達成するための方策、計画内容の達成状況と分析等が示されている、また、中長期の目標計画も示されている、等
「2」	目標は実績と対応し、数量的に、かつ計画も示されている、等
「1」	実績、目標・計画とも何がしか記載されているが欠落が多い、等
「0」	記載なし

② 温室効果ガス等の大気への排出量及びその低減対策 (4点)

「3」	目標・実績・計画とも指数だけでなく絶対値も示し、目標を達成するための方策、計画内容の達成状況と分析等が示されている、また、中長期の目標計画も示されている、等
「2」	目標は実績と対応し、数量的に、かつ計画も示されている、等
「1」	実績、目標・計画とも何がしか記載されているが欠落が多い、等
「0」	記載なし

③ 事業者毎に下記項目について重点項目を別途、勘案し総合評価する。 (4点)

- 1) 総物質投入量及びその低減対策
- 2) 水資源投入量及びその低減対策
- 3) 化学物質排出量・移動量及びその低減対策
- 4) 総製品生産量又は販売量
- 5) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及び廃棄物の発生抑制（リデュース）及び再使用（リユース）等による削減対策
- 6) 総排水量及びその低減対策
- 7) 輸送にかかわる環境負荷の状況及びその低減対策
- 8) オゾン層保護
- 9) その他公害管理（悪臭・振動・騒音等）
- 10) 包装材
- 11) 業種特性独自項目

「3」	重点項目を中心に上記項目について満遍なく取り上げられ、数値情報、経年比較も可能、等
「2」	概ね、記載されているが一部欠けていたり、数値情報が少ない、等
「1」	限られた項目の定性的記述にとどまっている、等
「0」	記載なし

④ 生物多様性への取組 (2点)

「3」	生物多様性に関する基本方針を公表し、目標・実績・計画とも指数だけでなく絶対値も示し、目標を達成するための方策、計画内容の達成状況と分析等が示されている、また、中長期の目標計画も示されている、等
「2」	ビジョン、目標が示され、目標は実績と対応し、数量的に、かつ具体的計画も示されている、等
「1」	実績、目標・計画とも何がしか記載されている、等
「0」	記載なし

3-3-2 国立大学法人

MAX:11点

① 総エネルギー投入量及びその低減対策 (3点)

「3」	目標・実績・計画とも指数だけでなく絶対値も示し、目標を達成するための方策、計画内容の達成状況と分析等が示されている、また、中長期の目標計画も示されている、等
「2」	目標は実績と対応し、数量的に、かつ計画も示されている、等
「1」	実績、目標・計画とも何がしか記載されているが欠落が多い、等
「0」	記載なし

② 温室効果ガス等の大気への排出量及びその低減対策 (3点)

「3」	目標・実績・計画とも指数だけでなく絶対値も示し、目標を達成するための方策、計画内容の達成状況と分析等が示されている、また、中長期の目標計画も示されている、等
「2」	目標は実績と対応し、数量的に、かつ計画も示されている、等
「1」	実績、目標・計画とも何がしか記載されているが欠落が多い、等
「0」	記載なし

③ 下記項目について総合的に勘案し評価する。 (3点)

- 1) 総物質投入量及びその低減対策
- 2) 水資源投入量及びその低減対策
- 3) 化学物質排出量・移動量及びその低減対策
- 4) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策
- 5) 総排水量及びその低減対策

「3」	上記項目について満遍なく取り上げられ、数値情報、経年比較も可能、等
「2」	概ね、記載されているが一部欠けていたり、数値情報が少ない、等
「1」	限られた項目の定性的記述にとどまっている、等
「0」	記載なし

④ 生物多様性への取組 (2点)

「3」	生物多様性に関する基本方針を公表し、目標・実績・計画とも指数だけでなく絶対値も示し、目標を達成するための方策、計画内容の達成状況と分析等が示されている、また、中長期の目標計画も示されている、等
「2」	ビジョン、目標が示され、目標は実績と対応し、数量的に、かつ具体的計画も示されている、等
「1」	実績、目標・計画とも何がしか記載されている、等
「0」	記載なし

3-4. 個別指標2 本業・設計・上下流

3-4-1 独立行政法人

MAX : 11点

① 本業成果 (3点)

「3」	事業目的、規模等に比し、サステナビリティに対する貢献が著しい、等
「2」	事業規模に比べサステナビリティへの貢献はそれほどでもなく、一部分についてのみの記載、等
「1」	今後の方向性のみを定性的に記述、等
「0」	記載なし

② 製品・サービス設計での環境配慮 (3点)

「3」	主要な製品・サービスに対して環境配慮開発設計について、実績・方針等を具体的に示している、等
「2」	事業規模に比べ少なく、一部分についてのみの記載、等
「1」	今後の方向性のみを定性的に記述、等
「0」	記載なし

③ **グリーン調達** (3点)

「3」	全調達額に対する割合、実績・方針等を具体的に示している、等
「2」	事業規模に比べ少なく、一部分についてのみの記載、等
「1」	今後の方向性のみを定性的に記述、等
「0」	記載なし

④ **製品・容器等のリサイクル、回収、資源再利用の取り組み等** (1点)

「3」	主要な製品・サービスに対して実績・方針等を具体的に示している、等
「2」	事業規模に比べ少なく、一部分についてのみの記載、等
「1」	今後の方向性のみを定性的に記述、等
「0」	記載なし

⑤ **サプライ・チェーンに対する環境配慮** (1点)

「3」	主要な調達先だけでなくその先のサプライヤーまで含めた方針等を具体的に示し、実績についても記述している、等
「2」	事業規模に比べ少なく、一部分についてのみの記載、等
「1」	今後の方向性のみを定性的に記述、等
「0」	記載なし

3-4-2 国立大学法人

MAX: 14点

① **本業成果 知の生産** (4点)

「3」	サステナビリティに関する知の生産が著しい、等
「2」	サステナビリティに関する知の生産はそれほどでもなく、一部分についてのみの記載、等
「1」	今後の方向性のみを定性的に記述、等
「0」	記載なし

② **本業成果 教育** (4点)

「3」	サステナビリティに関する教育に多大の成果を挙げている、等
「2」	サステナビリティに関する教育はそれほどでもなく、部分的記載、等
「1」	今後の方向性のみを定性的に記述、等
「0」	記載なし

③ **本業成果 知の普及** (3点)

「3」	地域コミュニティを含めサステナビリティに関する知の普及につとめている、等
「2」	サステナビリティに関する知の普及はそれほどでもなく、一部分についてのみの記載、等
「1」	今後の方向性のみを定性的に記述、等
「0」	記載なし

④ **グリーン調達** (2点)

「3」	主要な調達額に対する割合、実績・方針等を具体的に示している、等
「2」	事業規模に比べほんの端の一部分についての記載、等
「1」	今後の方向性のみを定性的に記述、等
「0」	記載なし

⑤ **サプライ・チェーンに対する環境配慮** (1点)

「3」	主要な調達先に対する関与割合、実績・方針等を具体的に示している、等
「2」	事業規模に比べほんの端の一部分についての記載、等
「1」	今後の方向性のみを定性的に記述、等
「0」	記載なし

4) **その他の事項** MAX:10点

① **環境効率** (4点)

「3」	貨幣・物量情報などの環境会計を活用し、環境効率指標の開発につとめ環境経営進展度の説明などに取り組んでいる、等
「2」	貨幣情報のみならず、物量情報とのリンクも考慮している、ベネフィットの計算根拠を示している、等
「1」	一応の記載はあるが内容的に乏しい、等
「0」	特段の記載なし

② **環境に関しマイナスとなりうる情報（苦情・事故・訴訟等）** (4点)

「3」	環境に関する訴訟(受)や、土壌汚染、苦情、事故などのマイナス情報が具体的に記載され、対応方針も示されている、具体的事案がない場合は「ない」ことが明記されている、等
「2」	一応の記載はあるが、必ずしも具体的なものばかりではない、等
「1」	部分的に記載あり、等
「0」	記載なし

③ **支所、サイト等に関する情報** (2点)

「3」	全サイトに関する情報(PRTRも含む)を豊富に記載、もしくはアクセスが明確、等
「2」	全サイトに関する記載、もしくはアクセスがあるが内容的に乏しい、等
「1」	部分的にのみ記載あり、等
「0」	記載なし

5) コミュニケーション

MAX : 7 点

① 信頼性担保の工夫 (2 点)

「3」	第三者審査の有無、第三者の意見を受ける、従業員や NGO 等の製作参加など積極的に信頼性担保の増強に努めている、等
「2」	諮問委員会等を設けている、等
「1」	信頼性担保のための何らかの記述あり、等
「0」	特段の記載なし

② マテリアリティについての工夫 (1 点)

「3」	自社のマテリアリティは何かについて、その選定プロセス、理念等も記載し、マテリアルな項目が網羅されている、等
「2」	マテリアルな項目が網羅されている。、等
「1」	マテリアリティを意識しているが首尾一貫していない、等
「0」	マテリアリティを必ずしも意識していないようだ、等

③ 理解しやすさの工夫 (1 点)

「3」	理解容易性、用語解説、報告書レイアウト・概観等随所に工夫をこらしている、等
「2」	一応の努力がみられるが平均的、等
「1」	部分的に工夫の跡はみられるが極めて不十分、等
「0」	工夫が全く感じられない

④ 比較容易性の工夫 (1 点)

「3」	客観的なガイドラインに準ずるとか、他社と共通の測定基準につとめる、など積極的に比較容易性の増強に努めている、等
「2」	経年比較については明確に表現されている、等
「1」	比較容易性のための何らかの記述あり、等
「0」	特段の記載なし

⑤ 検証可能性の工夫 (1 点)

「3」	算定方法や集計範囲などが明確にされ、少なくとも内部検証を経ているなどの記述、等
「2」	諮問委員会等を設けている、等
「1」	検証可能性のための何らかの記述あり、等
「0」	特段の記載なし

⑥ その他コミュニケーションの工夫 (1 点)

「3」	コミュニケーション方針やフィードバックの工夫はもとより、過去のフィードバック情報および対応等についても記述、等
「2」	葉書、ファクシミリ用紙等一応の工夫はなされている、等
「1」	部分的に記載あり、等
「0」	記載なし

6) パートナーシップ形成の取組 MAX : 5 点

「3」	地域のみならず、従業員を含むすべてのステークホルダーとのパートナーシップ形成の方針が示され、ステークホルダー・ダイアログ等が積極的に実施されているなどの記載、等
「2」	明確な方針はないが、多くの実績が記載されている、等
「1」	地域との交流等、わずかな取組の記載あり、等
「0」	記載なし

7) 環境での社会貢献・受賞歴その他の取組 MAX : 3 点

「3」	社会貢献についての積極的な方針と実績が記述されている、環境に関する受賞歴、等
「2」	方針、コミットメントはないが多くの実績が記載されている、等
「1」	宣伝的な記載あり、等
「0」	記載なし

8) 総合評価 MAX : 10 点

上記全体を総合勘案し、かつ独自の創意工夫や先導的な試み等も考慮し、総合評価する。

以上